

日本 GIF 特別オンラインセミナー
「中国の『水覇権』(Hydro-Hegemony) —周辺国への影響と紛争防止の枠組み—」
実施報告書 概要版

公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団

セミナー開催概要

- 主 催 : 公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団(日本 GIF)
- 日 時 : 2022年1月20日(木) 14:00~15:30
- 開催形式: Zoom を利用したオンライン形式 (ウェビナー)
- 講演者: 天野 健作氏 (大和大学 社会学部教授)
- 司会者: 中山 幹康氏 (日本 GIF 専務理事)
- プログラム内容:
 - 14:00 開会挨拶 中山 幹康氏
 - 14:05 講演 天野 健作氏
 - 14:50 質疑応答
 - 15:30 閉会

開催の趣旨

中国やインドの人口が増え経済が急成長していくのに伴い、アジアの水資源が注目されている。限られた水資源を中国がどのように開発していくのか周辺国が神経を尖らせている。中国が擁する国際河川の大半において中国は上流国にあたり、上流側の資源開発は下流国へ多大な影響を及ぼす。中国は、周辺国の懸念を顧みない「水覇権」を行使しているといえるのか。

日本 GIF は長年に渡って、国際河川の管理とインフラストラクチャーの問題について取り組んできた。ジャーナリストとしての経験を持つ、大和大学の天野健作教授を講師とし、アジアの水資源紛争を読み解き、水資源をめぐる国際紛争が生じないための条件、紛争防止のための枠組みについてご講演いただいた。

講演要旨

中国のヤルツァンポ川に建設計画中の墨脱ダムは、完成すれば三峡ダムの 3 倍の発電量となる。2021年3月の全人代の会議で、墨脱ダムについて言及した 5 年計画が承認され、中国政府が今後この計画を進めていく予定であることが判明した。

中国の水資源は、北方地域で少なく南方地域が多いため、南側の水を北側に持っていく「南水北調」計画が進んでいる。中央、東、西と 3 つのルートがあり、東ルートと中央ルートは既に完成しているが、西ルートは建設計画があるという情報しかない。

中国は 40 本以上の国際河川があり、そのうち 9 割以上の川の上流に位置しているが、80 以上の水資源管理に関する合意文書を締結している。中国は、カザフスタンとロシアとの

間では協定を結び、共同委員会を置いている。インドとの間には専門家レベルメカニズムを置き、MOU(了解覚書)を取り交わしている。メコン川は、下流域諸国でメコン川委員会作っているが、中国はダイアログ・パートナーとして関わっている。中国の水覇権の行使は非常に限定的であり、他国との協調関係のもと、常設の専門機関を設置し、情報やデータの交換を行っている。

メコン川は、2011年にミャンマーが民政移管された後から、アメリカが積極的に関与しようとしている。昨年発足したバイデン政権は「国際協調主義」をとっており、メコン川地域に引き続き高い関心を持ち続けるのではないかと推測しているが、不安定なミャンマー情勢もあり、アメリカや中国の今後の関与について見通すのは難しい。

国家の枠組みがそれぞれ違うため、社会システムに依存するのではなく、自然システムに任せる形で、統合的に国際水資源を管理することが重要である。紛争を防ぐための実効性のある国際協調は、水資源に特化して定期的に会合を行う「常設の共同機関」、機密性のある情報を交換し、政策立案の前提となる事実の透明性を確保する「情報・データ交換」が重要である。アジア地域には洪水を防ぐための水管理が重要であり、それがアジア地域の水資源紛争解決の鍵となる。

<質疑応答>

中国と下流国とのメカニズムや枠組みについて、インドとの関係についての質疑応答が行われた。

アンケート・感想

参加者に対し、セミナー終了時にアンケートを表示し回答を依頼。セミナーについて知った経緯、セミナーの感想、意見要望等について、貴重なご意見を頂戴した。

以上